

大豆認定品種「里のほほえみ」の高品質・安定栽培法

[要約]

大豆認定品種「里のほほえみ」において、高品質多収が得られる播種適期は、6月20日～7月10日である。また、適期より遅い播種期では、畦間30cm・株間10cmの狭畦栽培により収量の低下を軽減できる。

農業総合センター農業研究所	平成28年度	成果区分	普及
---------------	--------	------	----

1. 背景・ねらい

本県の大粒大豆の主力品種「タチナガハ」は、青立ち症状が多発し、収穫時期の遅れによる減収や品質低下が問題となっていたため、青立ちしにくい大粒大豆「里のほほえみ」を平成27年に認定品種に採用した。本県の生産振興方針では、平成29年産に800haの作付けが計画されており、普及拡大が見込まれる。そこで、高品質（紫斑粒、しわ粒、裂皮粒などの被害粒及び未熟粒混入率15%以下；農産物検査における一等最高限度）かつ目標収量250kg/10aが得られる栽培法を開発する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 水戸市（表層腐植質黒ボク土）において、7月10日播種までは目標収量250kg/10a以上を達成し、6月30日播種が最も多収となる。外観品質は、6月30日播種が最も被害粒及び未熟粒混入率が低いため、高品質多収となる播種適期は、6月20日～7月10日である（図1）。
- 2) 龍ヶ崎市（中粗粒灰色低地土）において、7月10日播種までは目標収量を達成し、6月20日播種が最も多収となる。外観品質は、6月30日播種が最も被害粒及び未熟粒混入率が低いため、高品質多収となる播種適期は、6月20日～7月10日である（図1）。
- 3) 水戸市において、適期より遅い播種期では、畦間30cm、株間10cmの狭畦栽培により目標収量・品質を達成することができる（図2）。
- 4) 龍ヶ崎市において、適期より遅い播種期では、畦間30cm、株間10～15cmの狭畦栽培により目標収量・品質を達成できる（図2）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は作物研究室（水戸市・表層腐植質多湿黒ボク土）、水田利用研究室（龍ヶ崎市・中粗粒灰色低地土）における平成26年から28年の3カ年の結果である。ただし、作物研究室の平成27年産は、ほか2年より「しわ粒」が多発したため、外観品質のデータは除外した。
- 2) 普及対象は、県下全域とする（課題提案元は産地振興課）。

4. 具体的データ

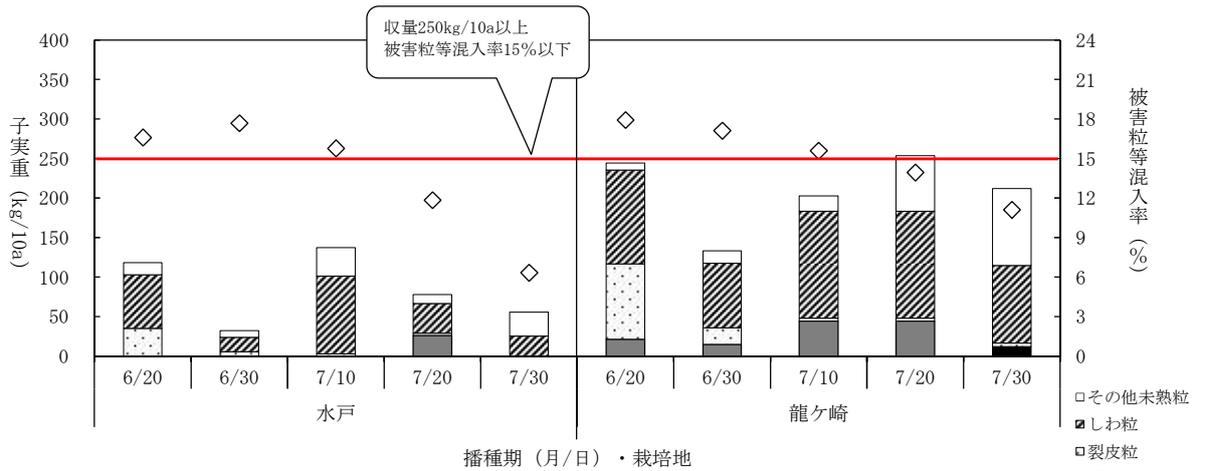


図1 所内ほ場の「里のほほえみ」における播種期別の子実重と被害粒等混入率
 注釈1) 畦間 60cm・株間 15cmのデータ 子実重は水分15%換算値
 注釈2) 被害粒等混入率は300粒から選別、判定した割合

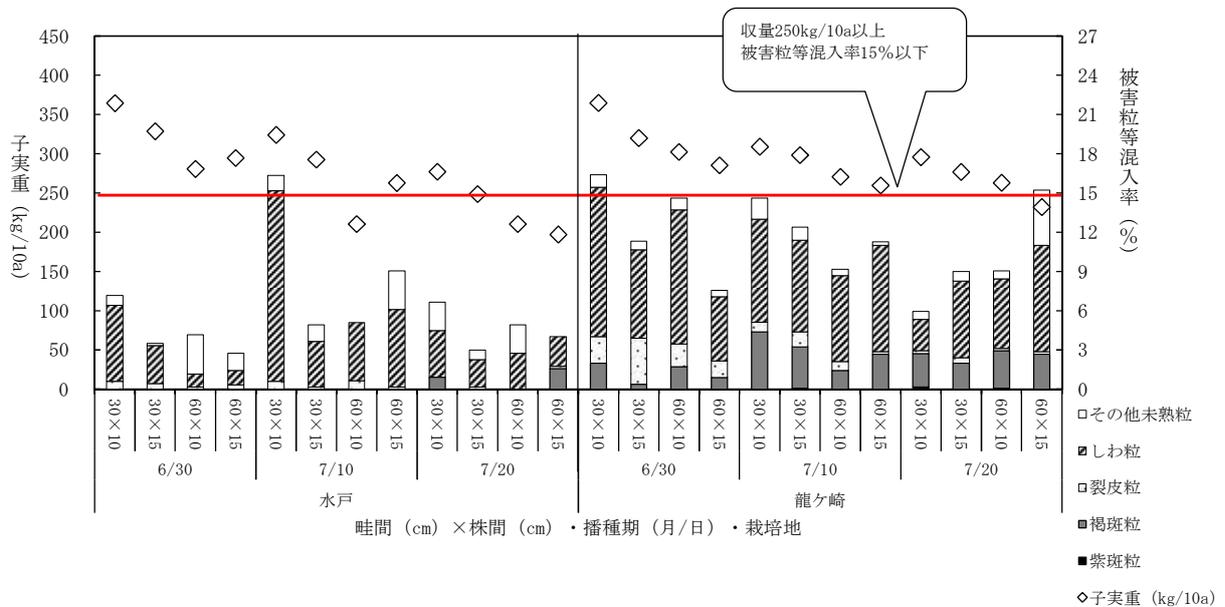


図2 所内ほ場の「里のほほえみ」における播種期と播種密度別の子実重と被害粒等混入率
 注釈1) 子実重の水分換算値、被害粒等混入率の測定法については図1に準じる。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

大豆有望品種における高品質・安定栽培技術の確立・平成26年～平成28年度・水田利用研究室、作物研究室